

タイトル：2022 年度 教育セミナー（第 18 回）

日時：2022 年 9 月 15 日（木）～18 日（日）

ハイブリッド開催

ポスター発表

「伝記資料に見える 16 世紀の体制転換期におけるダマスクスのウラマー社会の変化と継続性」

漆光（早稲田大学大学院文学研究科）

私は 2022 年度の中東☆イスラーム教育セミナーに参加するとともに、ポスター発表で現在行なっている研究の内容について発表させていただきました。今回は昨年に引き続いての 2 回目の参加でしたが、昨年度は叶わなかったは対面での参加もできるようになり、大変嬉しく思いました。以下、今回参加をしてみたの感想を述べたいと思います。

まず私自身のポスター発表についてですが、ポスターの作成自体が初めての経験で大変難しかったです。そして本番では専門外の方々がたくさんいらっしやる中で、説明・質疑の時間が共に少なかったこと、そもそもの私の説明能力の不足から質疑の時間を活発に出来なかったと感じました。ただその中でも、今後の研究に繋がる示唆、ポスター自体の改善点の指摘をいただけたことは大きな収穫となりました。今回感じた悔しさを、今後の研究発表の機会に活かしたいと考えています。

また先生方の講義については、昨年度と同様にご自身のこれまでの経験を踏まえた研究姿勢、また近年取り組まれている研究の具体例の双方で示唆に富んだものでした。特に 2 つ以上の地域の関わりについて考える越境という課題については、自分自身も現在進行形で取り組んでいる課題であるため、その実践例について学べたことは有意義でした。他の院生の方々の発表については、自分自身が普段馴染みの無い歴史学以外のディシプリンや中東以外の地域を取り扱った発表も多くあり、学びが多かったことに加えて、自分の専門領域以外のことでも活発に質疑に参加されているの方々が多くいらっしやり、自分もその姿勢を見習いたいと思いました。

昨年度との大きな違いである対面開催についてですが、上述した質疑の活発化の要因でもあったと思われました。同時に、発表時間以外での交流の機会が大きく増えてほぼ全ての対面参加者の方々と知己を持たせたことも大きな収穫でした。また、対面参加に加えてオンラインでの参加の選択肢も残されたことは、様々な制約から参加をためらっていた方々も参加できるため、労力が増える部分はあるかと思いますが今後も続けていただけましたら幸いです。

最後になりますが、開催へ向けた準備をしてくださいました AA 研の先生方、講師の先生方と千葉様、私の発表に対して質問してくださった方々に御礼申し上げたく存じます。

この感想文を読んでいる院生の方々も、本セミナーに参加、そしてぜひ発表されてみてください。ここで得られる他大学の院生・先生方との繋がりは、今後の研究人生の糧となるものであると思います。